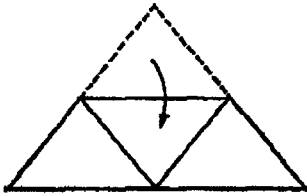
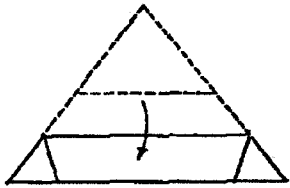


三角巾の使い方

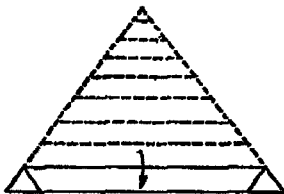
創傷部の被覆包帯、圧迫包帯止血、支持包帯、固定包帯等広く活用できる。



2つ折りたたみ三角巾



4つ折りたたみ三角巾



8つ折りたたみ三角巾

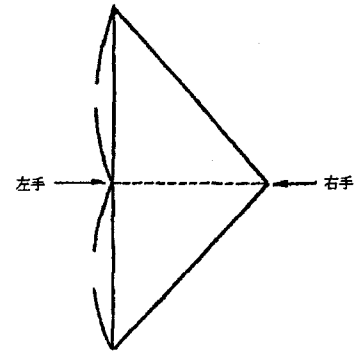
使用上の注意事項

- ア. 滅菌処理されているもの以外は、三角巾そのものを直接創傷部にあてないようにし、必ず滅菌ガーゼ等をあててから包帯を行うこと。
- イ. 解き易いように結ぶこと。
- ウ. 全巾として使用する場合は、必ず基底部を3～5cm折り上げ、折り返した方を外側にすること。
- エ. たたみ三角巾は、創傷および部位に応じて適当な幅および大きさとし、創傷部上に結び目がこないようにすること。
- オ. 結び目の位置は、創傷部上をさげ、かつ臥床時下にならないようにすること。
- カ. 被覆包帯および圧迫包帯止血等の目的にあった用い方をすること。

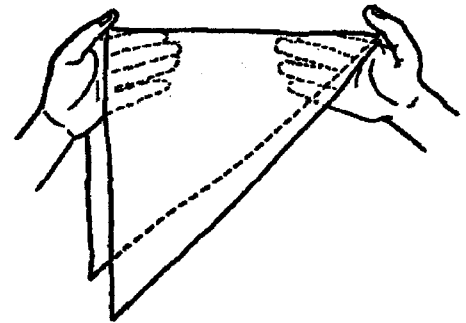
たたみ三角巾の作り方

地面（床面）衣類等に接触させることなく、手に持ったままの状態で作成し、三角巾の汚染を防止する。

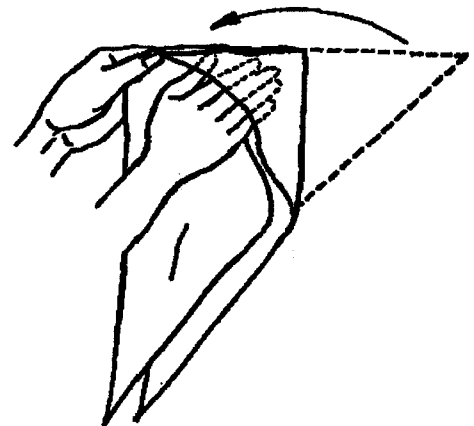
ア. 基底中央を左手で持ち、右手で頂点を持つ。



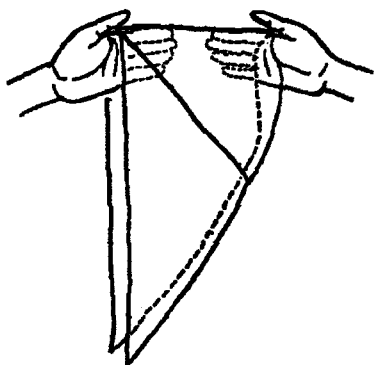
イ. 半巾を作る。この右手、左手ともに第1指を外に出して、他の4指を三角巾の中に入れる。



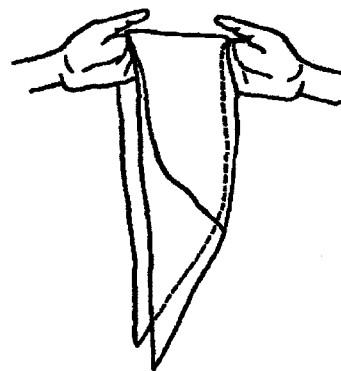
ウ. 右手（頂点側）を手前（山折り）に折り、左手と右手が合さるようにし、左手の第1指で頂点をおさえる。右手を手前1枚目と2枚目の間（図は第1～5指まで入っている所）に入れ、折り目の頂点をつまむ。



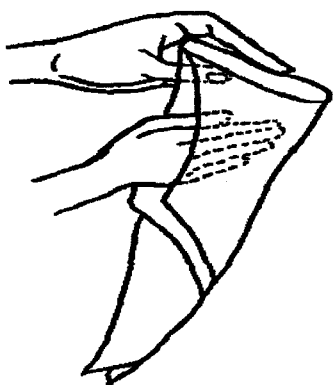
エ. 両腕を開いて開側を外側に返し、2つ折りのたたみ三角巾を作る。



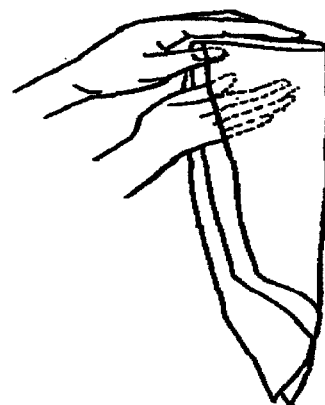
ク. 4つ折りにした後、右・左手ともに第1指を外側にし、残り第2~3指を内側に入れておく。



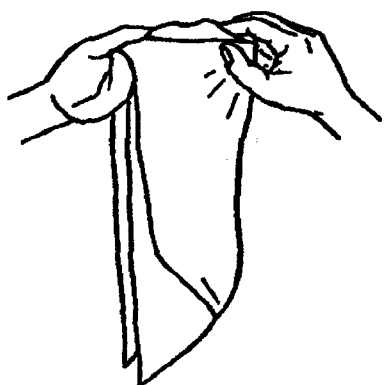
オ. 2つ折りした後、右・左手ともに第1指を外側に残し他の指を内側に入れる。



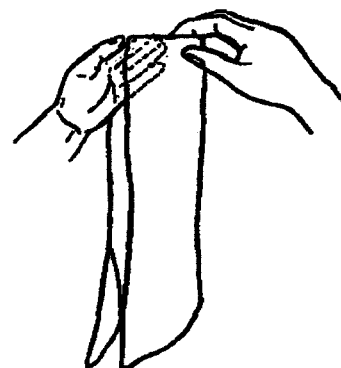
ケ. 右手側を手前(山折り)に折り、左手と右手が合わさるようにし、左手第1指で右手側の折り目の頂点をおさえる。右手を手前1枚目と2枚目の間(図は第1~5指まで入っている所)に入れ、折り目の頂点をつまむ。



カ. 右手側を手前(山折り)に折り、左手と右手が合わさるようにし、左手の第1指で右手側の折り目の頂点をおさえる。右手を手前1枚目と2枚目の間(図は第1~5指まで入っている所)に入れ、折り目の頂点をつまむ。



コ. 両腕を開いて内側に返して、8つ折りのたたみ三角巾を作る。



キ. 両腕を開いて内側を外側に返して4つ折りのたたみ三角巾を作る。

サ. 8つ折りたたみ三角巾の出来上がり。この方法によると、手に持った状態で全巾からたたみ三角巾(2つ折りから8つ折り三角巾まで)が作れる。



三角巾の結び方、解き方

三角巾を結んだり、解いたりする操作は傷病者にあたえる苦痛を最少限に止めることを前提として熟知しておく必要がある。

ア. 結び方

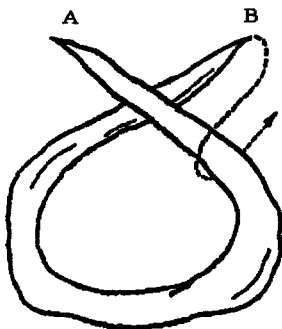
三角巾の両端を結ぶときは、本結びとすること。ただし、結んだ端を更に他と結ぶときは、たて結びとし、結び目がゆるまないようにする。

(ア) 「本結び」

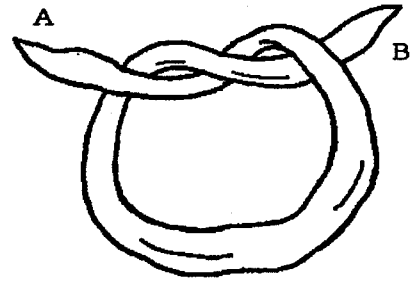
a 8つ折りのたたみ三角巾を準備する。



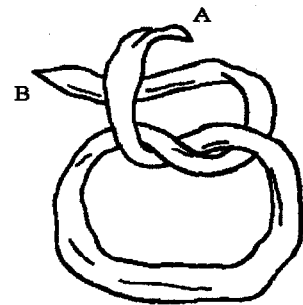
b 三角巾の右端(以下(A)という)を左端(以下(B)という)の上に重ねる。



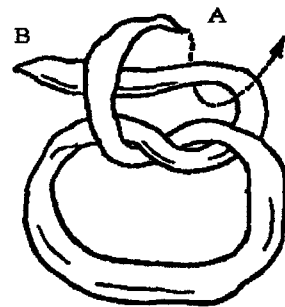
c (B)を上方にあげ(A)の内側から(A)の下を通し外側にだす。



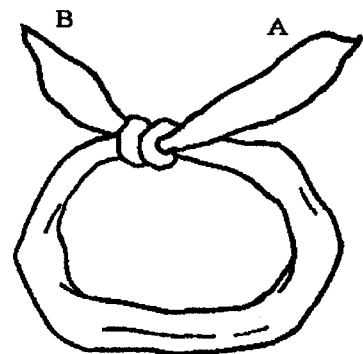
d (B)の上に(A)を重ねる。



e (A)を(B)の上外側から下を通し内側に出す。

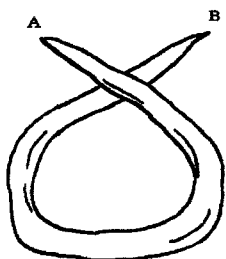


f (A)、(B)の両端を引き、しっかりしめる。(この結び方を普通「本結び」という)

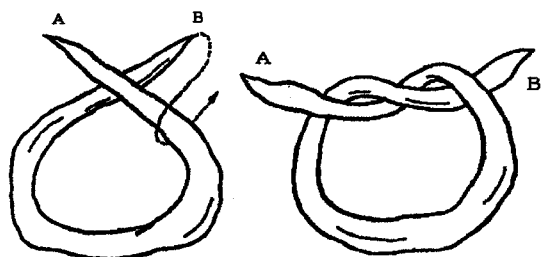


(イ) 「たて結び」

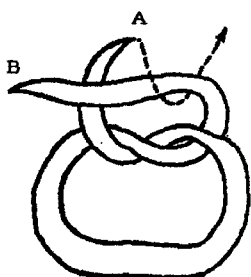
a 三角巾の右端(A)を左端(B)の上に重ねる。



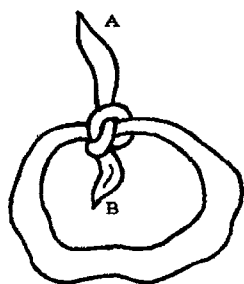
b (B)を上方にあげ(A)の内側から(A)の下を通し外側にだし(A)の上に(B)を重ねる。



c (A)を(B)の上外側から下を通し外側に出す。



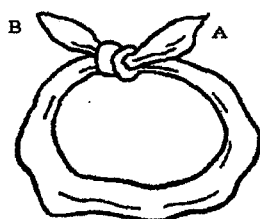
e (A)、(B)の両端を引き、しっかりしめる。



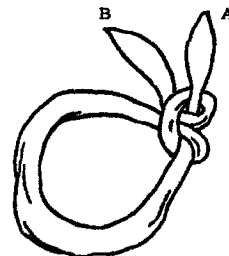
イ. 解き方

(ア) 「本結び」

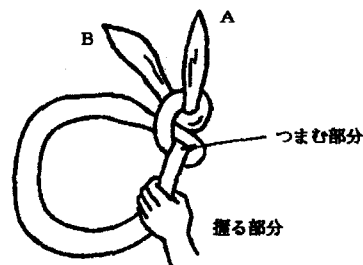
a 結んである三角巾を準備する。



b 右(左)手で結び目近くの輪の内側部分を握る。次いで左(右)手で片方の端(A)を力強く上方に引く。(右手と左手で持っている部分の三角巾が一直線になるようにする。)



c 左(右)手を(A)の端より離し、結び目の内側で結び目の所を左(右)手の第1指と第2指でつまむ。



d 結び目を上方((A)の端の方)におし上げるようにしてしごく、このとき右(左)手も下方に引くようにする。

※このようにすれば、どのようにもしっかり結んである本結びであっても容易に解くことができる。

(イ) 「たて結び」

たて結びのときは、本結びのように解くことは不可能であることから状況によっては、結び目をハサミで切ることも考えなければならない。

固定包帯

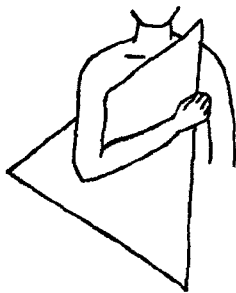
損傷部位を固定し、動揺を防ぎ、疼痛を軽減させるとともに症状の改善をはかるために用いる。

(1) 全巾固定包帯法

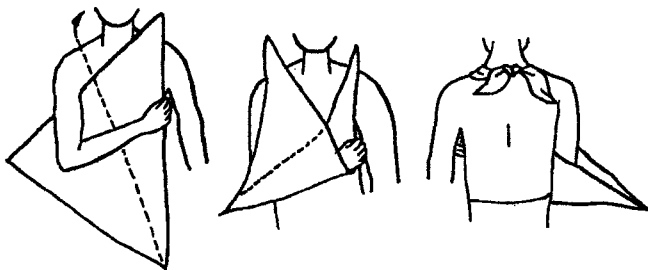
ア. 提肘固定三角巾 (その1)

上腕、前腕の骨折または骨折の疑いのある場合に多く用いられる。

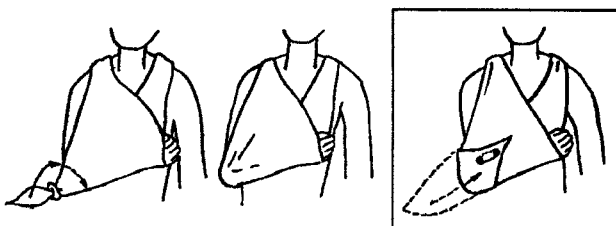
- (ア) 全巾および8つ折りたたみ三角巾1枚準備する。
- (イ) 全巾の一端を健側肩部にかけ、基底部分が体側と平行になるようにする。全巾の頂点は、患側肘部におき、患側手掌は、胸(乳房部)にあてるか、手掌部を上または、下側に向ける。



(ウ) 三角巾の下肢側の端は、患側の前腕を包んで折り上げ、患側の肩に掛け、両端を後頭部で結ぶ。



(エ) 肘部にある全巾の頂点は、とめ結びで結んで、三角巾の頂点を処理する方法または、安全ピンを用いる方法により止める。



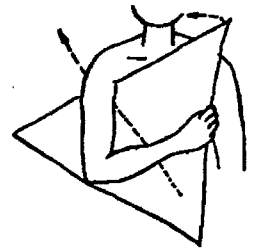
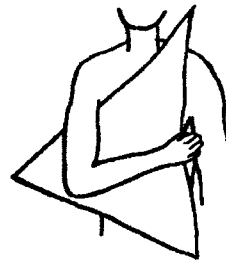
(オ) 8つ折りのたたみ三角巾で、上腕部(肘に近い部分で受傷部位をさける)を体幹に固定する。

(注) 指先は、血液の循環を確認するため覆わないで若干だしておくようにする。

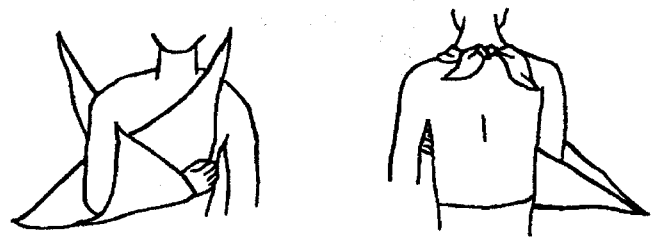


イ. 提肘固定三角巾 (その2)

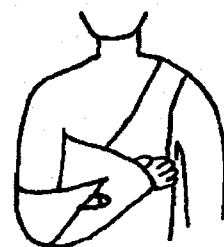
- (ア) 全巾の三角巾1枚準備する。
- (イ) 全巾の一端を健側肩部にかけ、基底部分が体側に平行になるようにする。全巾の頂点は、患側肘部におき、患側手掌は、胸(乳房部)にあてるか、手掌部を上または下側にむける。
- (ウ) 三角巾の下肢側の端は、患側前腕を包んで折り上げ、患側腋窩を通して背部にまわす。



(エ) 腋窩を通した端と健側肩部の端とを背部で結ぶ。



(オ) 肘部にある全巾の頂点は、とめ結びで結んで、三角巾の頂点を処理する方法または、安全ピンを用いる方法により止める。



(2) たたみ三角巾固定包帯法

ア. 下顎部

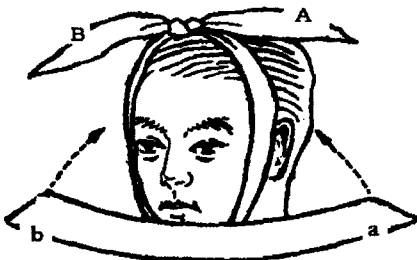
- (ア) 8つ折りのたたみ三角巾を2枚準備する。
 (イ) 実施者の手掌をくぼめて傷病者の下顎にあて、下顎を静かに支持しておき、8つ折りたたみ三角巾の中央部を下顎部にあてる。



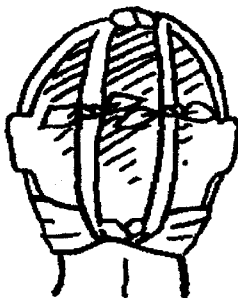
- (ウ) 両端を頭頂部で結ぶ。
 (注) ずり落ちないようにする。



- (エ) 更にもう1枚の8つ折りたたみ三角巾の中央部を下顎頭部にあて後頭部にまわして結ぶ。

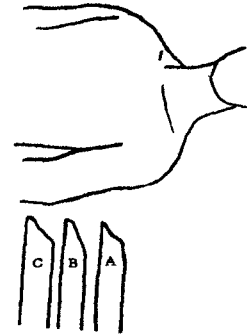


- (オ) 頭頂部の結んだ端末と、後頭部で結んだ端末とを後頭部でA端末とa端末をB端とb端末で結び固定する。



イ. 胸部

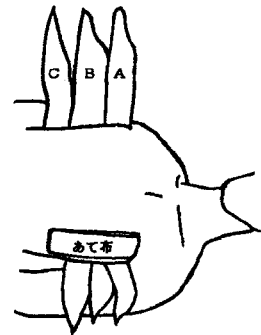
- (ア) 8つ折りのたたみ三角巾を4枚準備する。
 (イ) 傷病者が仰臥位の場合は、次のように固定する。
 a 固定する胸部の位置の左(右)側の床面上にたたみ三角巾の基底部分が床面で下肢側になるようにして、間隔なく配置する。



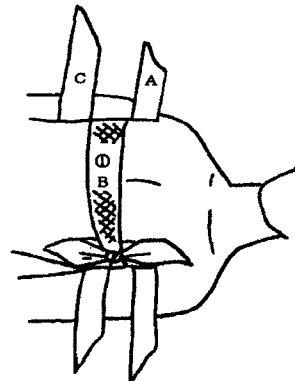
- b 8つ折りのたたみ三角巾を1枚ずつ腰部から通して固定する部位に移動させる。

(注) この場合、健胸部側の端を短く、患胸部側の端を長めにする。

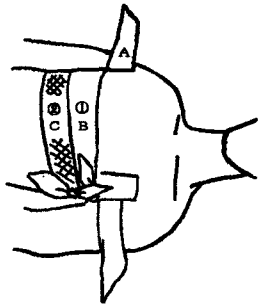
- c 健胸部側でたたみ三角巾の両端を結ぶ位置に8つ折りたたみ三角巾等のあて布を配置する。



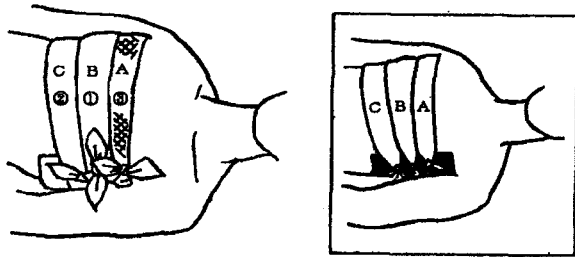
- d 8つ折りたたみ三角巾のB両端を一番始めにあて布上で結ぶ。結ぶ場合は、傷病者に大きく呼気させておいて、固定装着する。



e 8つ折りたたみ三角巾C両端をたたみ三角巾Bの基底部を1~2cmおさえるようにしながら前dの要領で固定装着する。

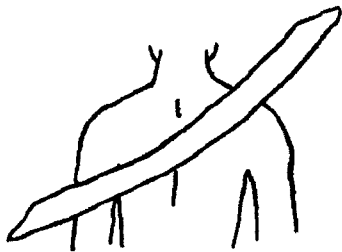


f 終りに8つ折りたたみ三角巾A両端をたたみ三角巾Bの頭部側を1~2cmおさえるようにしながら前dの要領で固定装着する。

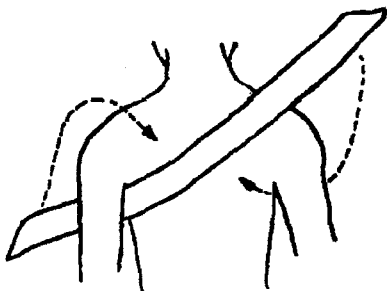


ウ. 鎖骨部

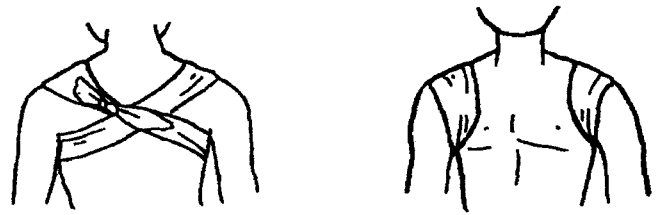
(ア) 8つ折りたたみ三角巾1枚準備する。
 (イ) 8つ折りたたみ三角巾の一端を患側肩峰部にかけて、他の端を健側腋窩になるように背部に斜めにあてる。



(ウ) 肩峰部の端を前面から肩関節部をおさえ腋窩を通して背部にまわし、健側腋窩部にある端を肩関節部をおさえながら肩峰部から背部にまわす。

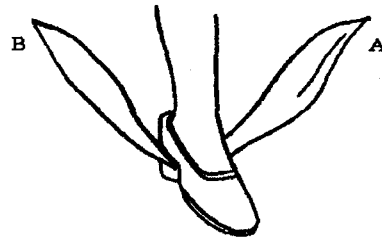


(エ) 両肩を後方に十分にそらせて、背部で両端を結び肩甲骨を固定する。

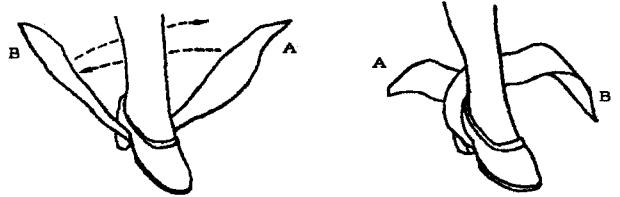


エ. 足関節

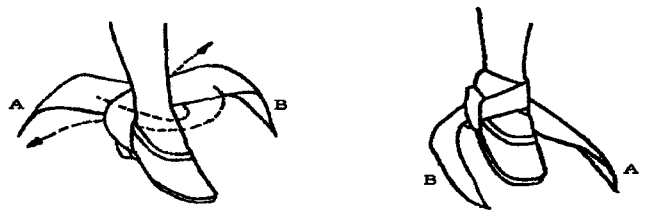
(ア) 8つ折りたたみ三角巾1枚を準備する。
 (イ) たたみ三角巾の中央部を足底部にあてる。



(ウ) たたみ三角巾の両端を足関節後方に引き上げて交差させる。



(エ) ついで、たたみ三角巾の両端を足背部の方にまわし、足関節前部で交差させ、両端をかかと斜めに巻いた三角巾の内側に通す。



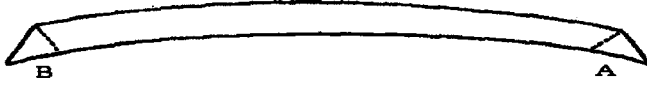
(オ) たたみ三角巾の両端を足関節前方部に引き締めながら、足関節前部で結ぶ。



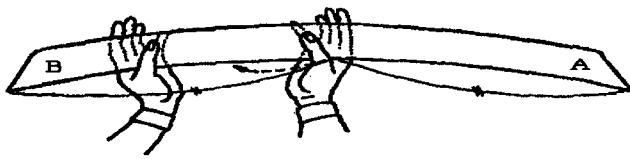
圧迫包帯止血

(1) 前額部

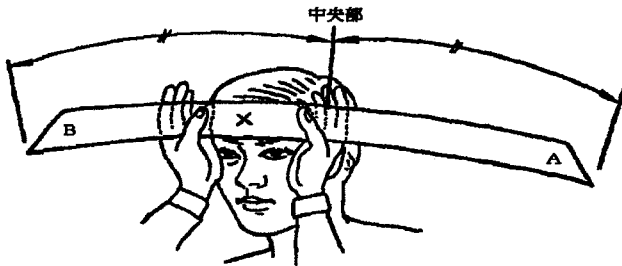
ア. 8つ折りのたたみ三角巾を準備する。



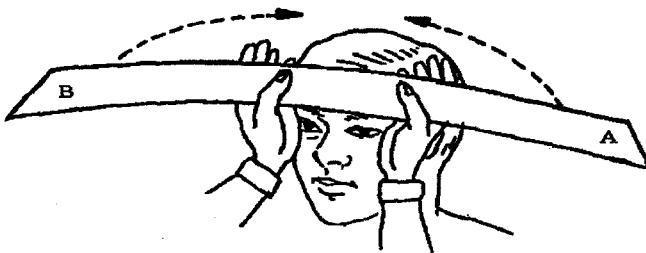
イ. たたみ三角巾の基底部を外側とし、かつ下の方になるようにして、中央部を右（左）手指で持ち、左（右）手指で約15cmくらいの幅を保つように持って、その中央部を損傷部にあてる。



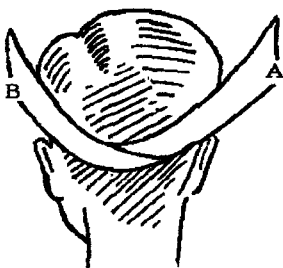
ウ. 眼瞼部上にたたみ三角巾の基底部がかかるようにあてる。



エ. たたみ三角巾で損傷部を適度に圧迫しながら両端を後方にまわし、外後頭隆起で交差させる。



オ. 外後頭隆起の下で交差した両端を更に前方にまわして受傷部をさけて前額部で結ぶ。

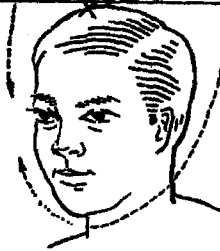
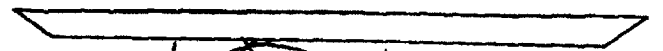


(2) 頭部

ア. 8つ折りのたたみ三角巾を準備し、たたみ三角巾の中央部を右（左）手指で持ち、左（右）手指で15cmくらいの幅を保って持ち頭頂部の受傷部にあてる。



イ. 長い方の端を頬を通して下顎にあて、適度に圧迫しながら、反対側の側頭部にまわす。



ウ. 両端を側頭部（耳介やや上方）で交差し、一端を前額部から反対側の側頭部へ、他の一端を外後頭隆起の下を通して反対側の側頭部へまわす。

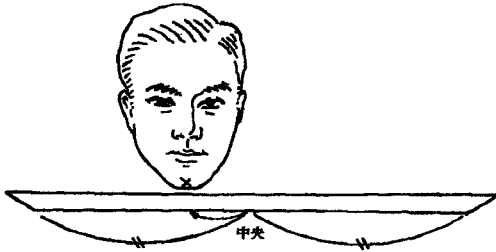


エ. 両端を側頭部のたたみ三角巾上で結ぶ。

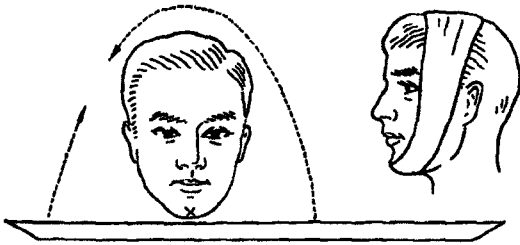


(3) 下顎部

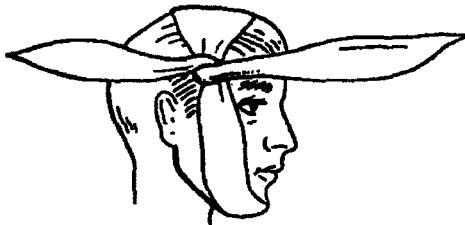
ア. 8つ折りのたたみ三角巾を準備し、たたみ三角巾の中央部を右手指で持ち、左手指で約15cmの幅を保って持ち、下顎損傷部にあてる。



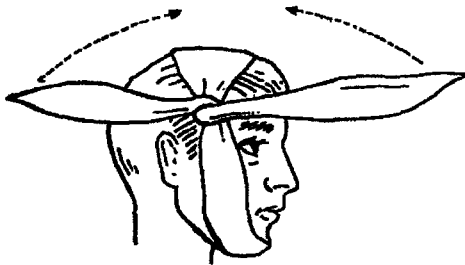
イ. 長い方の端を頬、側頭部、頭頂部を適度に圧迫しながら反対側の側頭部へ、他の端は頬を通過して側頭部にまわす。



ウ. 両端を側頭部（耳介やや上方）で交差させる。



エ. 一端を前額部から反対側の側頭部へ、他の端を外後頭隆起の下から反対側の側頭部へまわす。

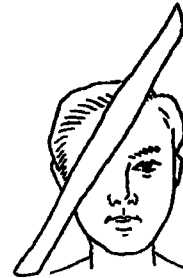


オ. 両端を側頭部（耳介やや上方）のたたみ三角巾上で結ぶ。

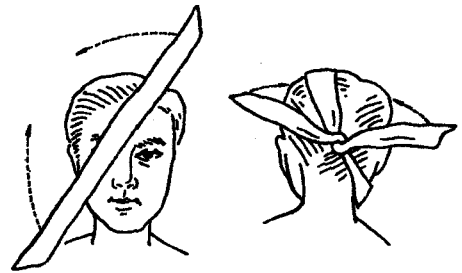
(4) 眼部

ア. 眼（片方の損傷 その1）

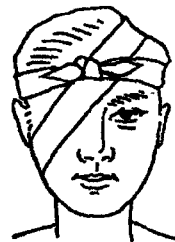
(ア) 8つ折りのたたみ三角巾を準備し、損傷した眼に斜めにたたみ三角巾の中央部をあてる。この場合、滅菌ガーゼを厚めにしてあてる。（以下眼部損傷については同じ）



(イ) 両端を後頭部にまわし、外後頭隆起部で交差させ前額部に両端をまわす。



(ウ) 両端を前額部のたたみ三角巾上で結ぶ。

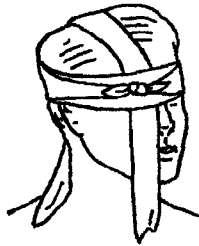


イ. 眼 (片方の損傷 その2)

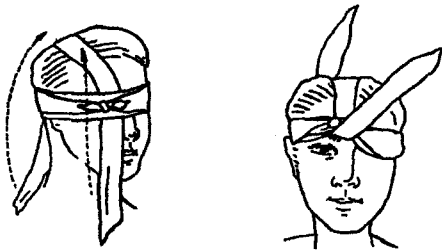
- (ア) 8つ折りのたたみ三角巾2枚を準備する。
 (イ) 1枚の8つ折りのたたみ三角巾の中央部を頭頂部にあて一方の端が損傷していない方の眼を覆うようにする。
 (注) 頭部にかけた三角巾は、ずれ落ちないように注意する。



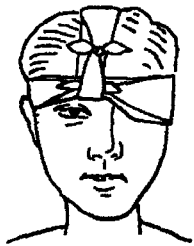
- (ウ) 他の8つ折りのたたみ三角巾を使用し、前額部の要領を準用して両眼を覆い損傷部をさけて結ぶ。



- (エ) 前額部のたたみ三角巾と三角巾の交差部を手でおさえ、他の手で前方にたれているたたみ三角巾の端を静かに引きあげ、健眼がでるようにする。

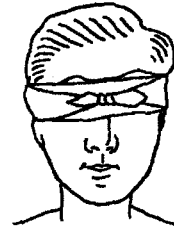


- (オ) 後方にたれているたたみ三角巾の端を引きあげ、頭頂部で結ぶ。



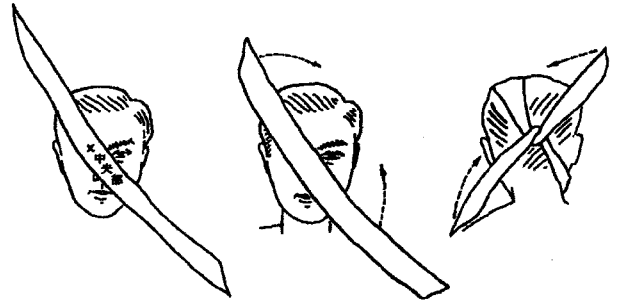
ウ. 眼 (両眼の損傷 その1)

- (ア) 8つ折りのたたみ三角巾を準備し、前額部損傷の要領に準じて装着する。

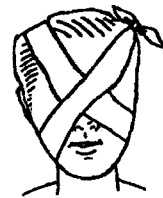


エ. 眼 (両眼の損傷 その2)

- (ア) 8つ折りのたたみ三角巾を準備し、たたみ三角巾の中央部から15~20cmくらい右(左)に寄った部分を片方の眼にあてる。
 (イ) 両端を後頭部で交差させ前方にまわす。



- (ウ) 長い方の端で他の損傷眼を覆い他の端を側頭部で結ぶ。



(5) 腋窩部または肩峰部

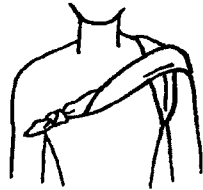
- ア. 8つ折りのたたみ三角巾を準備し、たたみ三角巾の中央部を腋窩損傷部にあてる。肩峰部の場合は、たたみ三角巾中央部から15~20cmくらい左(右)に寄った部分を肩峰部にあて、長い方の端を腋窩を通して、肩峰部で交差させる。



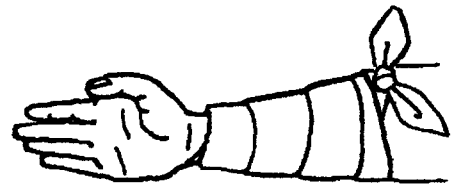
イ. 両端を肩峰部上で交差させる。



ウ. 交差させ背部側にまわった端を反対側の腋窩を通し、両端を前胸部で結ぶ。



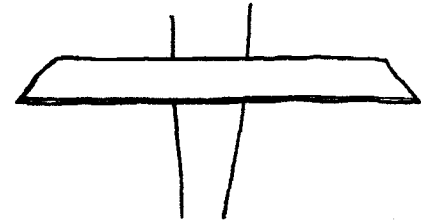
(ウ) 両端を結ぶ。



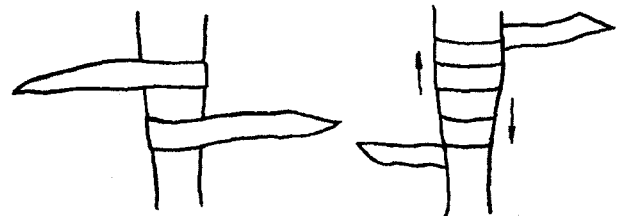
イ. 前腕部、上腕部、下腿部、大腿部 (その2)

(ア) 8つ折りのたたみ三角巾を準備し、たたみ三角巾の中央部を損傷部位にあてる。

(注) 下腿部は、4つ折りたたみ三角巾にして装着するとよい。



(イ) 一方の端を上の方に、他の端を下の方にそれぞれ巻き上げ、巻き降すように装着する。

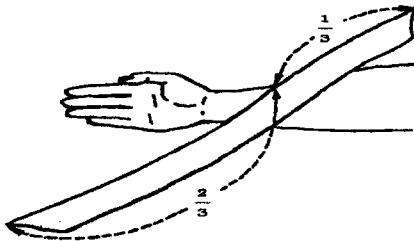


(6) 四肢

ア. 前腕部、上腕部、下腿部、大腿部 (その1)

(ア) 8つ折りのたたみ三角巾を準備し、たたみ三角巾の全長の約3分の1の部分創傷の上に斜めにあて、平手で十分におさえる。

(注) 下腿部は、4つ折りたたみ三角巾にして装着するとよい。



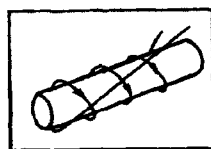
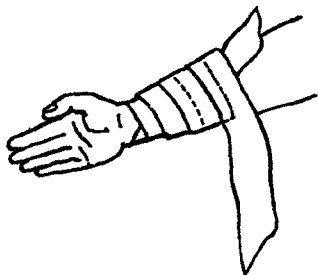
(ウ) 両端は、損傷部位をさけるようにして対角線上に結ぶ。



(イ) 手部側にあるたたみ三角巾の端を持ち、適度に圧迫しながら上腕に向って順次巻き上げる。

(注) 重ね合せた部分が開いて皮膚が露出したり、ゆるんだりしないようにする。

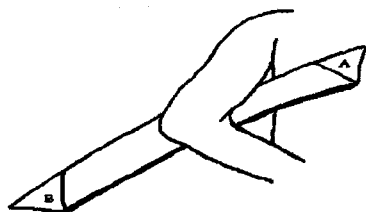
(先に巻いたたたみ三角巾を3分の1ぐらい重ね合わせるように巻くとよい)



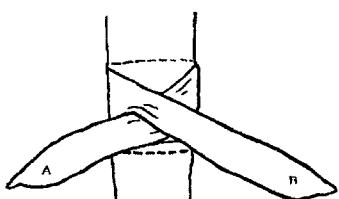
ウ. 肘部 (膝部)

(ア) 8つ折りのたたみ三角巾を準備し、たたみ三角巾の中央部を肘の外側にあてる。

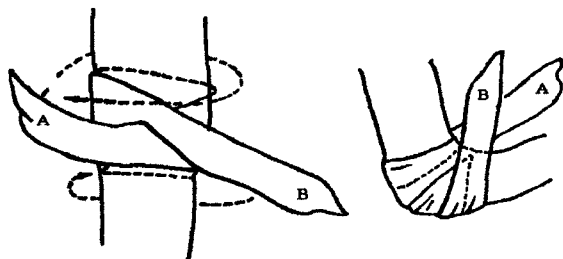
(注) 膝部は、4つ折りたたみ三角巾にして装着するとよい。



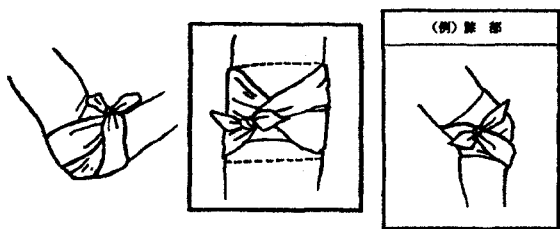
(イ) 両端を肘 (膝) の内側で交差させる。



(ウ) 交差したたたみ三角巾の下になっている輪を上腕 (大腿) の方にして、肘部 (膝部) 外側をおさえているたたみ三角巾を重ねておさえるようにしながらそれぞれ一巻きし、肘部 (膝部) 内側に両端をもってくる。



(エ) 肘 (膝) の内側で結ぶ。



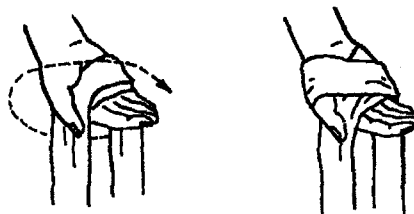
エ. 手掌部 (その1)

(ア) 8つ折りのたたみ三角巾を準備し、第1指の内側から手掌の上にたたみ三角巾の中央部をあてる。

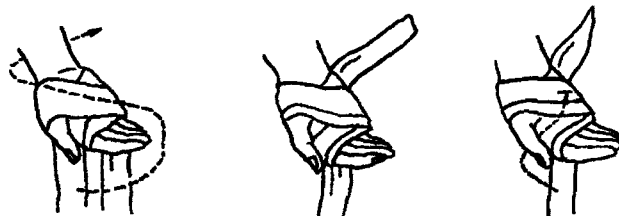
(イ) 第1指側のたたみ三角巾の端を手背側にまわし、第5指側から手掌を圧迫し第1指側に巻く。



(ウ) 第5指側のたたみ三角巾の端を手背から第1指の基部外側をまわし、手掌の上ののせ第5指側に巻く。



(エ) 両端を手背で交差させる。(第1指側の端を第5指基部外側に第5指側の端を第1指、第2指の間を通して手掌側にして交差させる。)



(オ) 両端を手掌部で結ぶ。



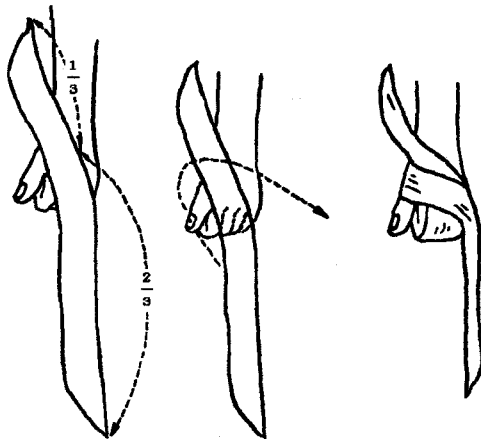
オ. 手掌部 (その2)

この包帯法は、手指切断創の場合も装着できる。

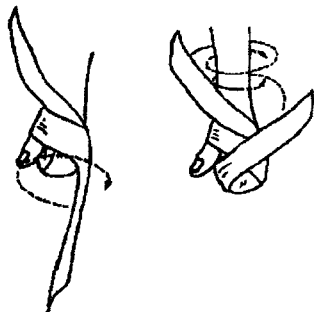
(ア) 手関節の外側に8つ折りのたたみ三角巾の3分の1の部分をあてる。

(注) 手掌の場合は、十分な厚さの滅菌ガーゼを傷者に握らせること。

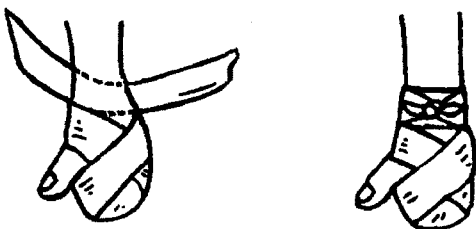
(イ) 長い方の端で適度に圧迫しながらにぎった指背から手背を覆い、ついで第1指基部外側から第5指外側にまわす。



(ウ) 第5指外側から第1指と第2指の間を通して、もう一度手背を通して手関節部に巻き上げる。

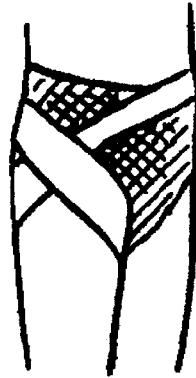


(エ) 両端を手関節部で結ぶ。



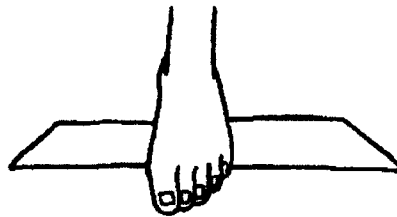
カ. 股間部

(ア) 8つ折りのたたみ三角巾を準備し、たたみ三角巾の中央部を股間(内側)の損傷部にあて、両端を大腿部の外側で交差させ、反対側の腰部で結ぶ。

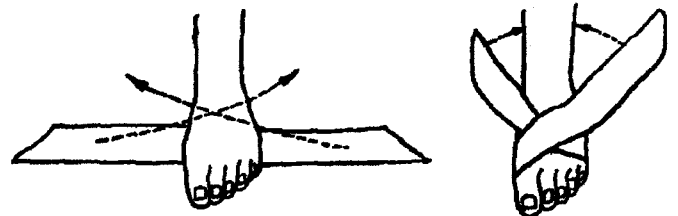


キ. 足部

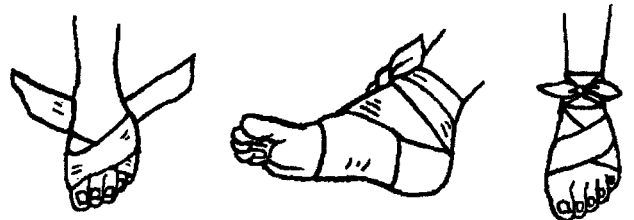
(ア) 8つ折りのたたみ三角巾を準備し、足底にたたみ三角巾の中央部をあてる。



(イ) 両端を足背で交差し、足関節部にまわす。



(ウ) 足関節部の後部で交差した両端を足背にまわし、足関節前部で結ぶ。



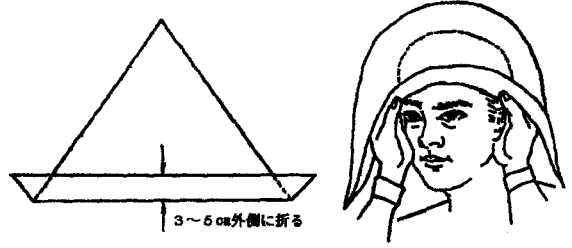
2 被覆包帯

(1) 全巾被覆包帯法

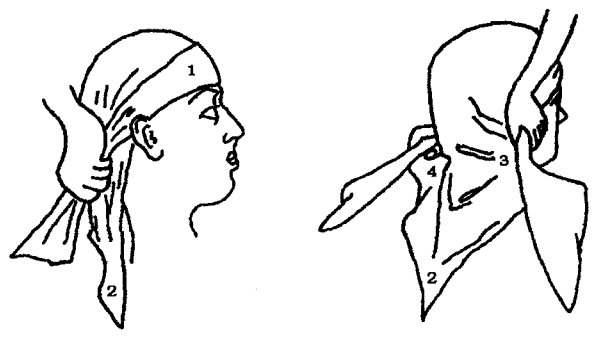
ア. 頭部 (その1)

頭部の創傷を被覆するために用いる。

(ア) 基底部を3~5cm折り、折った側を外側に
して、眼窩上部に折り目の基底部をあて頂
点は頭部から後頭部にたらしめておく。

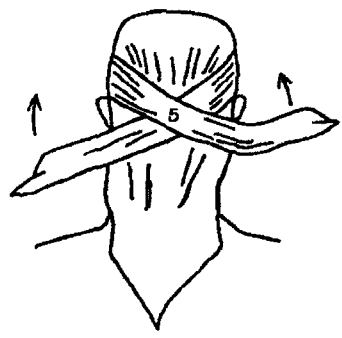


(イ) 側頭部にある三角きんの両側を握り、三角巾
で額をしぼるようにしながら両耳の後方で第1
指と第2指を動かして三角巾をたぐりながらし
ぼり込み、頭部にぴったり密着するようにする。



(ウ) 三角巾の両端を外後頭隆起の下で交差させ、
前額部の方にまわす。

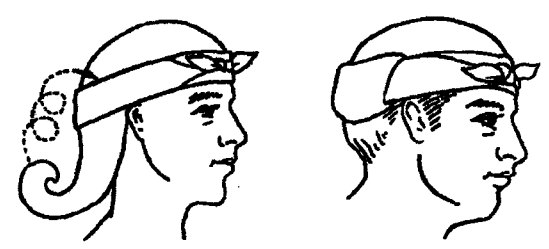
(注) 外後頭隆起の下で交差させるのは、三角
巾の離脱を防止するためである。



(エ) 前額部にまわした三角巾の両端を本結びで結
ぶ。



(オ) 頂点部分をたたみ込むようにして外後頭隆起
まで巻き込み離脱しないようにして処理する。

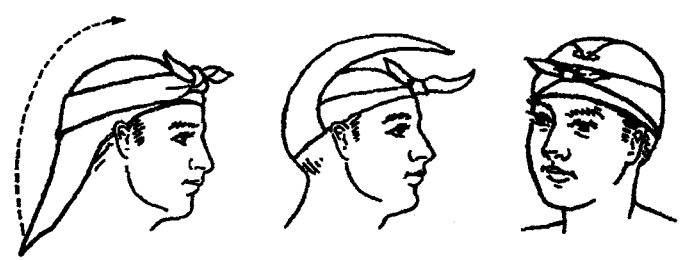


イ. 頭部 (その2)

(ア) 頭部 (その1) のアからエまでを準用する。



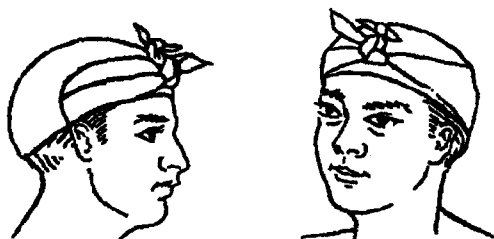
(イ) 外後頭隆起の三角巾交差部を左 (右) 手でお
さえ、右 (左) 手で頂点を持って上方に引き上
げ、安全ピンで頂点をとめる。



ウ. 頭部 (その3)

(ア) 頭部 (その2) のア、イを準用する。ただし、三角巾の両端は、たて結びとする。

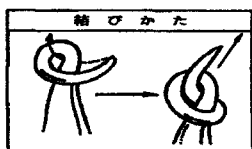
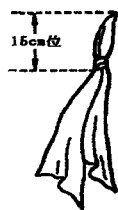
(イ) 前額部で結んだ一端と後部から持ってきた頂点とを結ぶ。



エ. 顔面

顔面の熱傷等の損傷に用いる。

(ア) 三角巾の頂点から 15cm 位のところを「止め結び」で結ぶ。



(イ) 頭頂部に結び目がくるように当てて顔面を覆い、両端を後頭部で交差する。

(注) 基部を折って三角巾の大きさを調節する。



(ウ) 交差した三角巾の両端をそのまま前方に回わして顎の下で結ぶ。必要に応じ目、鼻、口の部分に穴をあける。(それぞれの部分を指でつまみハサミで切る。)

(注) 顎の下で結ぶ場合、頸部を強く巻きすぎで窒息させることのないように注意する。



オ. 体幹 (肩甲部、胸部、背部)

肩、胸部、背部の熱傷等の損傷に用いる。

(ア) 三角巾の頂点を下にして、基底を 3~5 cm 外側に折り、折った基部を受傷部側 (以下「患側」という) の肩におき、全巾の中央の線が患側の肩から上腕の中央を通るようにあてる。



(イ) 基部端の一方は、患側から背部へ、受傷していない側 (以下「健側」という) の胸部側から他の端を健側腋窩を通して背部にまわし肩甲下部でたて結びで結ぶ。

(ウ) 健側肩甲下部で結ぶとき、一方の端をながめにする。



(エ) 患側にある三角巾の頂点を左 (右) 手で十分にのばして患部を被覆し、右 (左) 手で患側の腋窩部にある三角巾の両辺をつまむ。

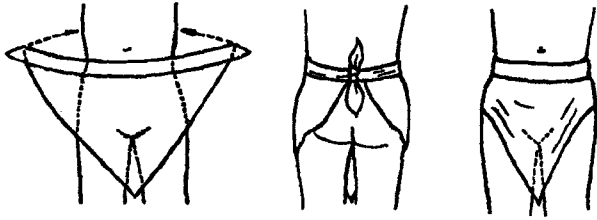
(オ) つまんだ三角巾の両辺を腋窩部へおさえつけるようにして頂点を患側上腹部の内側から腋窩を通して背部にまわす。



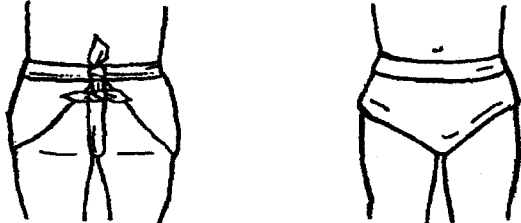
ク. 陰部

(ア) 全巾の基底を3~5cm折り、折った部分が外側になるようにして、腹部にあて頂点が下肢側にたれるようにする。両端を背部にまわして腰部中央でたて結びに結ぶ。

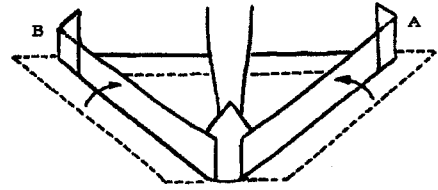
(イ) 全巾の頂点は前面から鼠径部、陰部を覆い股間を通して後方にまわす。



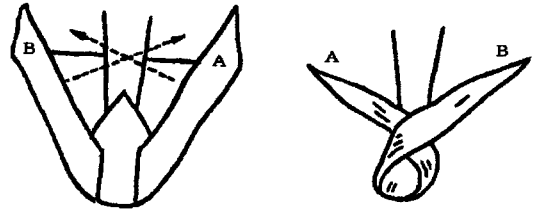
(ウ) 腰部中央で結んだ端の一方と頂点とを結ぶ。



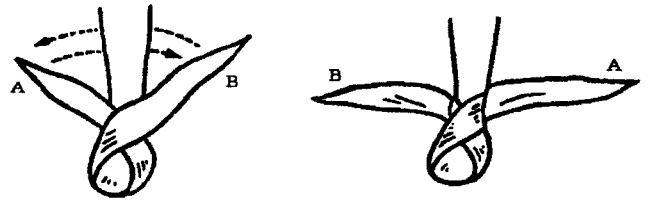
(ウ) 両辺を5~10cm内側に折り込みながら足部に密着させる。



(エ) 両端を足背で交差させる。



(オ) 更に足関節後方で両端を交差させる。

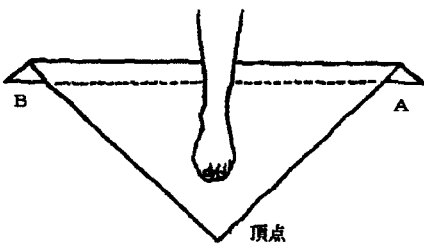


(カ) 両端を、足関節前部で頂点をおさえるようにして結ぶ。

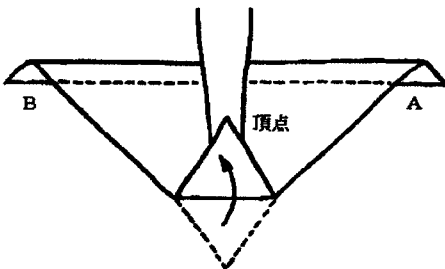


ケ. 足部

(ア) 全巾の基底を2~5cm折り、折った部分が外側になるようにして中央やや頂点側に患足を指先が頂点側に向くようにしておく。



(イ) 頂点を折り、足背を覆う。

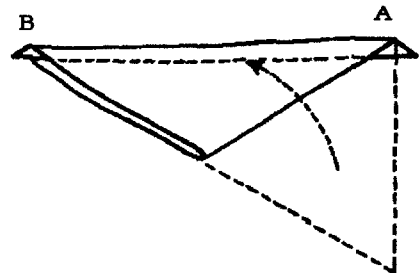


(2) 半巾被覆包帯法

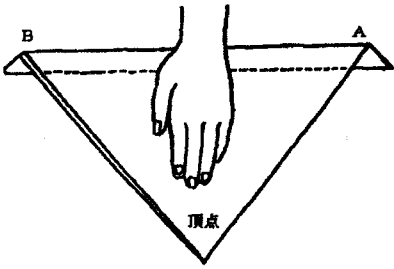
ア. 手部

指趾断創面部の被覆にも用いられる包帯法でもある。

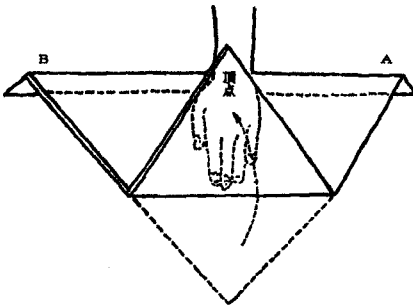
(ア) 半巾を作る。半巾の基底を3~5cm折る。



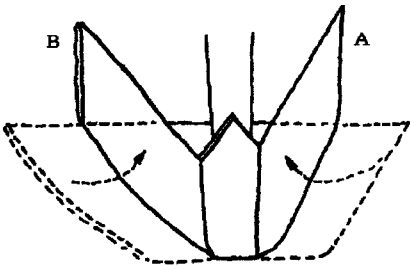
(イ) 半巾頂点側に手の指先が向くようにして、半巾の中央部に手を置く。



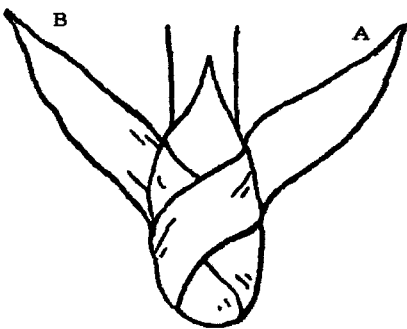
(ウ) 半巾頂点を手背部に折り、手を包むようにする。



(エ) 両辺を手側に沿って料めに折り込みながら手に密着させる。

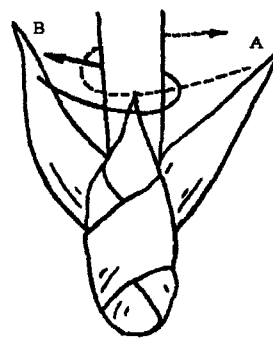


(オ) 両端で手背部を覆って交差させ、更に手関節部で交差させる。



(カ) 両端の余分を手関節部で後方にまき込み交差させる。

(キ) 手背で結ぶ。



(ク) 頂点を内側に折り込み、完全に処理する。

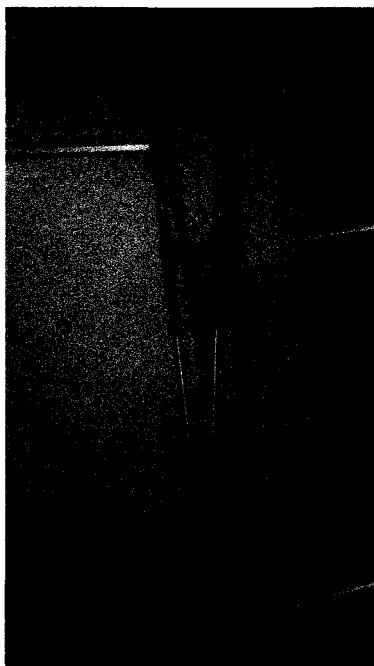


(オ) 両端で手背部を覆って交差させ、更に手関節部で交差させる。

ストックを利用した松葉杖の作成法

1 作成方法

- 長さ：脇の下3センチ位に調整できればベター
※高すぎると脇の下で支えることになり、腕の神経を痛める。
- 握り手：腕が少し曲がる程度の位置に調整し、腕で体を支えることができるようにする。
※親指と人差し指の間の手のひらを使用して体を支えることができるように高さに固定



腕で支えることができる高さ

テープ等で固定



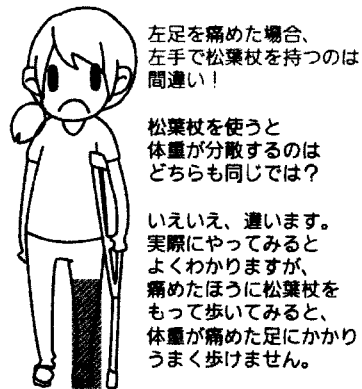
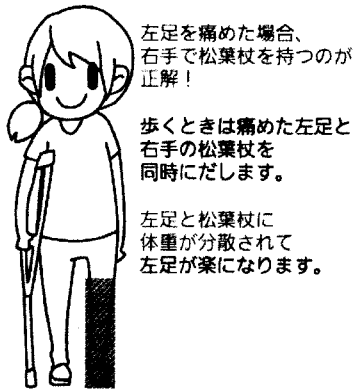
2 使用方法

- 健康な脚の方でもつ。
- 一歩目の踏み出し
- 脇で支えない。手で支えて歩く。

※脇の下は神経が沢山走っており、神経を損傷して障害を起こす。

松葉杖を1本で使う場合、どちらの側で松葉杖を突いたらいいの？

「痛めた足の代わりに使うのだから、痛めた足の側で使う。」これは間違いです。
「松葉杖は痛めていない足の側で使う」が正しい使い方です。



●登り降りの方法

登り：①健側の脚を上げる→②杖と患側の脚を上げる。



降り：①杖と患側の脚を下ろす→②健側の脚を下ろす

